

ⅢⅢ 紹 介 ⅢⅢ

農村改革と農民—1万余戸の農民に対するアンケート調査

中央農村政策研究室農村調査事務室
座 間 絃 一 紹 介

解説

ここに紹介するのは中共中央農村政策研究室農村調査事務室が行ったアンケートのまとめである。実施時期は1988年1月で、調査地点は全国293の農村固定観察点(村)の10,938戸の農家である。この固定調査村については1984年と1986年の2度にわたってサンプル調査がなされており、この2調査については私は『東亜経済研究』で翻訳(要約)、紹介した。それらは「全中国農村社会経済状況調査報告(要約)」(原題「全国農村社会経済典型調査状況報告(節録)」『農村経済問題』1986年第6期)『東亜経済研究』第51巻第1・2号(1988年10月)と「中国農村固定観察点1986年調査報告のまとめ」(上),(下)(原題「農村固定観察点1986年度彙総報告」『農民日報』1988年1月9日から23日まで8回にわたり掲載)『東亜経済研究』第51巻第3・4号(1989年12月),第52巻第1・2号(1990年7月)である。

今回の調査は農家の家長に対してなされたアンケート調査である。農村改革の現状とそれに対する農民の反応がうまく引き出されていて、農村の状況と農民の意識がいきいきと伝えられている。また上のふたつと併せて、3度の調査を比較することによって全国農村の1980年代の推移を概観することが出来る。

紹介は翻訳に近い形で抄訳した。

(座間絃一)

はじめに

(1)この固定観察点は、1986年に類型サンプル原則に従って設定された。比較的豊かな村が21%、一般的な村が53%、比較的後進的村が26%を占める。アンケート農家はランダムサンプリングで抜き出し、各村の農家総数の15%前後とした。アンケートは無記名で、戸主本人が回答した。

(2)10,938人の戸主の基本状況

年 齢	%
30以下	18.9
31—40	34.4
41—50	15.1
51—60	15.1
60以上	6.4
平 均	41才

学 歴	%
文盲・ほとんど文盲	17.2
小学校程度	40.9
中学校程度	32.1
高校・それ以上	9.8

政 治 状 況	%
中共黨員	16.0
共青団員	6.4
非黨員・非団員	77.6

この他村党支部、村民委員会、村合作組織の職についている者9.4%

家庭経営の業種状況

	%
栽培業が主	83.2
林・牧・漁が主	2.8
二・三次産業が主	14.0

1. 生活水準の向上とその原因

(1) 改革9年来の農民家庭の食、衣、住、生活用品、燃料の変化

	食	衣	住	用具	燃料
明らかに向上した	32.2	24.4	25.8	18.6	15.5
やや向上した	61.8	66.6	37.4	63.4	40.2
変化なし	5.1	8.1	35.2	16.9	39.1
やや低下した	0.7	0.8	1.2	0.9	3.5
明らかに低下した	0.2	0.1	1.4	0.2	2.7

(2) 生活水準向上の原因

土地を農家に請け負わせたことにより生産部門の拡大と科学技術の進歩を引き起こしたことが改革以来の農村経済発展と農民生活水準の向上の根本原因である。同時に国家が農産物買い付け価格を引き上げたことも一定の役割をはたしている。

3項目選択	累積頻度(%)	順位
土地の農家請負が労働の積極性を引き出した	92.8	1
就業部門が多くなり、多角経営ができるようになった	54.8	2
科学技術水準が向上した	40.2	3
農副産物価格が上昇した	28.7	4
家庭労働力が増えた	27.7	5
お天道様が助けてくれ、天候が良かった	26.9	6
集団経済が発達し、集団からの収入が増えた	13.5	7
親戚、友人が助けてくれ、家庭外からの収入が増えた	10.4	8
国家の救済金が多くなった	1.3	10
その他	3.8	9

(3) 少数の農家の生活水準の低下とその原因

調査農家中409戸 (3.9%) は改革の中で家庭生活水準が低下したと考えている。

その原因は：

	戸数	%
土地請負後、生産経験に欠けていた	95	23.2
家族労働力減少	90	22.0
土地耕作以外に、その他の就業部門がなかった	71	17.4
家に病人が出て、経済負担が重かった	49	12.0
家族人口が増えた	41	10.0
その他	63	15.4

(4) 当面の生活水準のレベル

改革以来農民の生活水準は顕著に向上したが、もとの水準が低かったので、多くの農家はやっと衣食を解決した状況になったばかりで、豊かになり始めたのは少数である。

	%
衣食問題を解決したばかりで、豊かではない	56.2
やや豊かになった	34.2
既に豊かになった	5.6
まだ衣食を解決していない	4.0

(5) 今後の生活水準に対する予測

	%
引き続き向上できる	53.2
変化しない	17.6
やや低下するかも知れない	2.5
分からない	26.6

2. 経済改革に対する満足度

(1) 全体的な評価

	%
満足	87.4
不満足	0.8
どちらでもない	11.8

(2) 農民がもっとも満足している面

3項目選択

項 目	累積頻度(%)	順位
家庭請負制を実施し、生産の自主権を持った	90.4	1
より自由になったと感ずる	57.2	2
集市交易が活発化し、売買が便利になった	51.4	3
農民の工商業従事、多角経営化を激励した	32.5	4
国家が農副産物買い付け価格を引き上げた	17.2	5
統一買い付け割当買い付けを廃止し、定量契約買い付けを実施した	17.0	6
一部の人が先に豊かになるのを許した	13.5	7
多種経済成分、多種経営様式の存在を認めた	11.5	8
党風、社会の気風が良くなった	8.9	9
その他	0.1	10

農民の回答結果からみると、生産自主権の拡大、政治の民主的権利、生産物交換権がもっとも受け入れられ、これがまさに農村改革の成功の所在——農民大衆の主人公たる地位を尊重する——である。

(3) 農民のもっとも不満足な問題 (3項目選択)

	累積頻度(%)	順位
化学肥料、農薬などの値上がり、供給が間に合わない	81.0	1
国家の農産物買い付け価格が低すぎ、定量契約買い付け任務が重い	28.6	2
各種の割当、負担が重い	28.1	3
土地の分割が零細すぎ、耕作に不便をもたらした	27.9	4
社会治安の混乱	20.9	5
不正の風潮がひどい	20.0	6
機械耕作、灌漑排水など一家でやれないことを管理する人がいない	15.8	7
売買婚、客のもてなしや贈り物が盛んである	15.2	8
新たな生産部門がない	13.9	9
基層幹部の工作作风が悪い	12.6	10
封建迷信、賭博等がひどい	12.5	11
集団財産の損失がひどい	9.4	12
計画生育が厳格すぎる	8.7	13
生産した物が売り切れない	3.8	14
その他	1.7	15

上の2項目は実際には同一の現象を反映している。農産物と工業品の交換では、一度はシェーレが縮小したが、再びやや拡大した。農民曰く『化学肥料は値段が高く、ジーゼル油は協議価格で、農副産物買い付けは級を下げられ、値段を下げられる』。

割合が多く、負担が重いことは相当多くの農家に実感されている。1987年に、調査農家1戸あたり各種の割当、負担支出は109.4円で、農民負担の問題は一旦は緩和したが、再び重くなった。農民の不満は、精神文明建設面、とりわけ社会治安の不良、風紀の不正に向けられている。ある農家はアンケートの中で『衣食足りた感じはするが、安定感がない』、『良い物は食べられるが、よく寝られない』、『経済は良くなったが、風紀は乱れた』と書いている。

(4) 党の方針や政策を理解する主な経路

	%
新聞	16.8
放送	18.7
テレビ	17.4
基層幹部からの伝達	12.5

(5) 党の農村経済政策の安定性に対する見方

問：党の農村政策は不変であることを信用するか？

	%
信用する	42.2
あまり信用しない	9.8
分からない	48.0

3. 土地問題

(1) 土地請負方式

	%
人口割り請負	71.6
労働力割り請負	5.2
両田制	21.5
入札方式	1.7

(2) 土地片の零細性・分散性

	%
土地片が過度に零細、分散し、耕作に不便をもたらす	62.7
調整が必要と思う	68.0
{ 集団が統一的に調整する	78
{ 農家間で自主的に協議し調整する	22

一戸平均請負耕地面積 9.2畝, 9筆

(3) 請負地の調整方式

土地請負以来44.4%の農家が請負地を調整し, 55.6%まだ調整していない。

	是	否	不明
人口、労働力が増えた農家が請負土地の増加を要する	80.6	8.9	10.5
人口、労働力の減った農家に他人が土地を減らすよう要求する	79.5	11.0	9.5
労働力が集団企業で働いたり、個人工商業になったりした者は請負土地を返すべきである	58.7	23.3	18.0
分家したときに請負土地も分ける	80.0	2.9	17.1
耕地を荒廃させた場合は集団は回収を強行する	84.7	6.9	8.4

上の表から、人口、労働力の変動に従って、請負地を然るべく調整し、分家したときは土地を分けることを多くの農家が要求している。これは土地集中に不利である。

(4) 土地譲渡に対する態度

	%
請負をやめたい	5.1
新たに請負いたい	29.0
いずれも望まない	65.9

第二、三次産業に従事している者の中で請負地を請負をやめたい者は10.8%である。これは仮に土地を請負をやめる条件がある非農家でも、多数は土地を放棄しようとしなことを示している。

(5) 土地経営の中での困難と要求 (10項目中, 3つ選択)

	%
栽培技術と情報が不足しているので、指導を希望する	58.1
病虫害防除が難しいので、統一協調を望む	48.9
灌漑排水が困難なので、統一組織を望む	44.1
役畜、農機具が不足し、田間作業が困難なので、サービス提供を望む	30.7

(6) 農家の施肥量の増減状況 (1987年)

	%
前の数年に比べて増加した	46.9
前の数年に比べて減少した	16.6
前の数年に比べて変わらない	36.5

4. 農業生産問題に関して

(1) 農, 林, 牧, 漁業生産状況 (1987年)

	戸数	%
農林牧漁業生産項目を持つ農家	10,524	96.2
生産品目別		100.0
1 - 3種		36.9
4 - 6種		52.8
7種以上		10.3
平均 4.2種		
農産物種類別		100.0
食糧生産農家		96.1
豚などの畜産物生産農家		68.6
野菜生産農家		66.5
鶏鴨あひるなど家禽生産農家		59.3
油料生産農家		51.7
果実生産農家		16.2
綿花生産農家		13.9
農産物生産を完全に離れた農家		3.8

現段階の農家は濃厚な伝統的集約経営の色彩を持ち、専門化の水準は低い。

(2) 作物栽培品目按配の動機

項 目	戸数構成 (%)	順位
自家用	66.1	1
国家の定量買付け任務	15.6	2
村の統一按配	8.4	3
伝統的経験	4.2	4
市場の動向	3.9	5
他人をまねる	1.6	6
その他	0.2	7

(3) 食糧生産に対する態度

	%
多く栽培したい	52.4
自家用に足りればそれで十分	26.2
他の事は出来ず、食糧栽培しかできない	18.1
食糧栽培は儲らないので少なくするか栽培しない	2.7
その他	0.6

(4) 1戸当たり平均食糧保有状況 (1988年1月)

	kg
合 計	1,365
自家消費用	904
飼料用	273
販売用	168

(5) 家畜家禽生産動向

	%
今後拡大したい	37.9
今後減らしたい	3.1
現状維持	58.9

55.2%の農家が販売用食糧を持っている。

5. 農産物流通と農用生産手段供給状況

(1) 農産物販売種類とその数 (1987)

農林牧漁生産物販売農家 10,127戸, 調査農家の92.6%

1戸当たり平均販売種類 2.9種

	%
内 1種類販売農家	18.2
2種類販売農家	25.3
3種類販売農家	24.0
4種類販売農家	18.0
5種類以上販売農家	9.5

販売種類	農産物販売農家に占める比重 (%)	当該項目生産農家に占める販売農家の比重 (%)
食糧	79.1	79.2
綿花	12.7	88.3
油料	34.7	64.7
糖料	6.6	83.8
葉煙草	2.0	54.6
麻類	4.7	73.5
果実	12.4	73.7
蔬菜	21.8	31.5
茶	3.0	66.9
木材、竹	5.7	47.5
薬材	1.9	73.5
家禽類	36.9	60.0
畜産類	60.3	84.5
水産類	5.4	70.1
その他	6.0	81.9

(2) 農産物販売方式 (%)

農産物種類	国家買付	買付主 販売従	買付販 売半々	販売主 買付従	販売のみ
食糧	57.9	27.8	6.6	5.1	2.6
綿花	82.6	12.0	1.7	0.9	2.8
油料	59.6	18.5	5.8	5.2	10.9
糖料	74.6	7.1	1.2	0.9	16.2
葉煙草	60.6	4.2	2.3	6.1	26.8
麻類	46.2	7.1	3.1	10.4	33.2
蔬菜	1.1	3.1	1.6	8.8	85.4
果実	8.5	5.4	2.0	7.4	76.7
茶	48.3	11.8	4.9	8.4	26.6
木材、竹	30.5	12.1	3.1	6.7	47.6
薬材	38.4	11.0	2.4	4.5	43.7
家禽類	3.2	3.2	2.3	10.7	80.6
畜産類	17.7	8.1	6.1	8.6	59.5
水産類	3.1	4.7	2.4	8.8	81.0
その他	24.7	15.2	4.2	6.2	49.7

(注) 買付とは国家買い付けを指し、販売とは市場販売を指す。

(3) 生産物販売で不満のある問題

買い付け部門が級を下げ値段を下げる	44.3
定量契約買い付け任務が重すぎる	20.4
不法分子が詐欺や市場を独占する	5.6

11.7%の農民は、1987年に国家の定量買い付け任務完成以後の食糧、油料、畜産物に対し関係部門が自由売買を許さなかったと述べている。

(4) 食糧の定量契約買い付け問題について

	%
完成すべき	92.7
完成しなくてもよい	3.4
意思表示したくない	3.9

1987年の食糧定量契約買い付け任務について

	%
完成・超過完成した	90.5
完成しなかった	9.5

1988年の食糧定量買い付け任務について

	%
削減を要求	44.3
増加を要求	4.4
現状維持	51.3

(3) “3リンク”の実行率

定量契約買い付け任務を持った農家数8,685戸

	供給契約量 (高)	供給量	実行率
化学肥料とリンク	108kg	88kg	81.6%
ジーゼル油とリンク	24kg	20kg	82.6%
予約買い付け手付け金	62.9元	54元	85.6%

(4) 農用生産手段不足状況

	%
化学肥料が不足している農家	91.0
ジーゼル油が不足している農家	70.7
農薬が不足している農家	42.5
農用ビニールが不足している農家	33.9

6. 富裕化についての見方

(1) 職業選択について

問：今よりもっと金を稼げるが、もっと多く働かなければならない場合、この種の仕事をしたいと思うか？

	%
したい	70.0
したくない	8.3
どちらともいえない	1.7

(2) いかにして豊かになるか？

	%
主に自己の手腕に依拠して	70.3
主に国家の援助に頼って	17.9
主に集団に頼って	5.7
主に親戚・友人の援助に頼って	0.9
主に運に頼る	5.2

(3) 富裕化の直面する困難（3項目選択）

	累積頻度 (%)
資金不足	76.8
技術が解らない	49.6
情報不足	47.7
労働力不足	33.7
経営管理能力不足	31.0
学問がない	23.4
郷村合作経済組織のまとまりがない	14.4
いろいろな部門からの嫌がらせ	14.2
いろいろな人の嫉妬	3.5
その他	3.0

(4) 三中全会前後（1988年12月）にどんな人が豊かになったか。

	三中全会前	三中全会以後
1位	村や生産隊の幹部	技能があり、技術が解る人
2位	家族労働力が多い家	商売に従事する人
3位	村の外で働く人がいる家	村や生産隊の幹部
4位		家族労働力が多い家
5位		村外で働く人がいる家

(5) 農家間の収入格差に対する見方

問：改革前と比較して農家間の収入格差は拡大したか、縮小したか？

	%
拡大した	87.6
縮小した	2.5
変化なし	5.0
知らない	4.9

問：収入格差の拡大についてどう思うか？

	%
合理的	70.5
不合理	11.7
分からない	17.8

(6) 先に豊かになった農家に対する見方

	%
彼らは学ぶべき見本で、嫉妬すべきでない	70.3
格差の拡大を制限すべきだ	5.6
一部の者が先に豊になるのは反対	4.9
意見なし	19.2

(7) 私営の労働力雇用経営に対する見方

	%
存在を認め、正しく指導する	47.8
認めるが、発展するに任せず、制限する	13.0
雇用労働は搾取であり、反対	8.6
意見なし	30.6

7. 村合作経済組織設立に対する見方と村幹部の評価

(1) 村合作経済組織について

問：土地を農家に請け負わせて以後、村の合作経済組織を設立する必要があるか？

	%
必要	62.0
不必要	17.2
どちらともいえない	20.8

必要と答えた者の理由

1位	党の農村政策を貫徹させる
2位	選種、機械灌漑、機械耕作などのサービスをし 一家で出来ないかやりにくいことをする

不必要と答えた者の理由

	%
村党支部がやればよい	9.4
村民委員会が担えばよい	17.4
両者が一緒にやればよい	68.8
必要ない	4.4

(2) 村幹部について

問：現在村の幹部は大部分どんな状況か？

	%
一生懸命皆と一緒に豊かになるよう指導している	38.1
自分だけ豊かになろうとしている	26.5
権力を自分のために使おうとしている	9.7
手当だけもらって仕事はしない	9.1
政策に従って仕事をしない	3.3
言いたくない	13.3

8. 文化・知識追求と子女への期待

(1) 文化・知識に対する見方

問：文化・知識は農村での商品経済発展にとって有用か？

	%
非常に有用	54.4
やや有用	41.5
役立たない	4.1

(2) 子女の就学に対する希望

	%
大学まで行かせたい	66.6
中等専門学校まで行かせたい	12.6
高級中学まで行かせたい	10.5
初級中学まで行かせたい	8.2
小学校でよい	2.1

(3) 子女の就業に対する希望

	%
大学に行って国家幹部になる	42.5
労働者になる	17.0
解放軍になる	10.2
教師になる	9.9
個人工商業戸になる	4.6
郷村幹部になる	2.3
農民になる	10.5
その他の職業につく	3.0

注：アンケート作成，調査のまとめに参加したのは李天資，余展，孫中華，劉福合，王強，賈粹華で，執筆は孫中華である。張校軍はアンケート作成に参加し，崇法はアンケート初稿に修正意見を出した。

(原名「農村改革与農民——对一万余戸農民の問卷調査」中央農村政策研究室農村調査事務室『農業經濟問題』1988年第8期)